



緑の大切さを次世代へ！おすすめ植樹祭

11月9日（土）、大丸運動公園において、『平成25年度おすすめ植樹祭』が開催され、関係者約350名が参加しました。

植樹祭は、緑化意識の高揚と地域林業の振興を図るために行われています。式典では、町青年団による太鼓演奏で始まり、各種褒賞授与や緑のメッセージ披露のほか、森林の健全化や地球温暖化防止などを謳った『おすすめ植樹祭スローガン』が採択されました。

その後、マテバシイ 12 本、ウバメガシ 11 本、シャリンバイ 300 本、トベラ 300 本と松の苗木 300 本が参加された人たちによって植え付けが行われました。



▲1本1本丁寧に植栽する参加者



畑で恋活？！→調理室で恋活！

11月10日（日）、町中央公民館において、『第1回畑で恋活 IN 大崎町』が行われ、女性12名・男性12名で遠くは指宿市からの参加もありました。

これは、町内で農業に従事している20～30代の農家で組織する大崎町農業青年倶楽部が主催したもので、農業体験を通じて参加者と交流（恋活）を深めようという企画。

しかしながら、当日はあいにくの雨模様。急遽予定を変更し、午前中のうちに倶楽部員で収穫した芋を使い、『ガネの天ぷら』を共同作業で作ることとなりました。

参加者らは最初は緊張しながらも、料理を作るうちに打ち解けて和やかな雰囲気の中で作業が進んで行きました。



▲今回4組のカップルが成立しました。



インドネシアと大崎を繋ぐ友好の証！

11月12日（火）、現在本町が『ごみのリサイクルシステム』の技術支援を行っているインドネシア国デポック市とバリ州とのお互いの友好・親睦を祈念して、大崎ものづくりネットワーク振興会（小川益治会長）から『うさぎの家族』が寄贈されました。

『うさぎの家族』は、平成24年1月（バリ州知事へ）と平成25年10月（デポック市長へ）にそれぞれ贈られており、町や畑にゴミのない清潔で、心豊かな農村の暮らしを願い制作（表現）されているとのこと。

なお、本作品は役場1階ロビーにてご覧になれます。



▲友好の証として『うさぎの家族』が寄贈されました。